

平成 25 年

通巻 200 号



8 月 1 日

発行

創刊 200 号
記念特集



東京鋳螺協同組合

東京都墨田区押上 1-32-12
TEL. 03(3613)4141



「ムサシより 電波を飛ばす スカイツリー」 広報委員長 小口正喜 氏 撮影

目次

「東鋳」発行 200 号によせて	広報委員長 小口 正喜… 2
「東鋳」200 号発刊にあたり	理事長 今西 浩一… 2
歴代理事長からのメッセージ	
顧問 石川喜一郎… 3	
顧問 丸山 正昭… 4	
顧問 片倉 新治… 5	
顧問 渡辺 昇… 6	
台湾螺絲協会との意見交換会… 7	
委員会だより… 8	
流通経営委員会… 8	
福利厚生委員会… 8	
ねじ流通商社経営実態調査について… 8	
支部だより… 9	
3 支部合同例会 千神螺支部… 9	
京都デジャブ 墨水支部… 9	
港鋳螺ゴルフ会 港支部… 10	
第二回ゴルフコンペ	
組合の会議から… 11	
組合員だより… 11	
訃報… 11	
東鋳ゴルフ会報告… 11	
川柳コンクール結果発表… 12	

巻頭言

「東鉾」発行200号によせて

広報委員長 小口 正 喜



「東鉾」も八月の発行で200号となりました。100号を発刊してから二五年、歴代理事長や投稿くださった皆様に支えられこの日を迎えることができ感謝申し上げます。

100号から200号の間には、バブル崩壊、リーマンショック、東日本大震災など日本の経済を揺さぶる出来事が多々ありましたが、東鉾協の皆様はそれを克服され今日に至っております。

200号記念として、歴代理事長および現理事長より東鉾の活動を知るうえで貴重なメッセージをいただきありがとうございます。また新しい試みとしては、川柳コンクールを行い多数の応募がありました。「締結」「世相」のテーマをもうけましたが様々な発想の作品が集まり、ここに優秀作品を発表できることは日ごろ皆様の東鉾協に對して、ご協力の深さを表すものと思います。

広報誌「東鉾」は一にも二にも組合員各氏の協力があって成り立っています。

先日台湾のねじの組合と交流会をいたしました。台湾全土が組合員の対象で年数回の会合とのことでした。(懇親会中心?)

比較して東鉾協の組織を考えますと、総会、理事会、総務委員会があり、さらに財務をはじめとして事業、流通経営、福利厚生、規格、広報等の多岐にわたる委員会組織により組合員の交流が活発で情報交換が行われ充実感があるように思います。これも六十年余にわたり歴代の理事長はじめとする組合員皆様が発案された結果だと思えます。これを基に、これからも皆様のご協力のもと、組合員の意見を反映し、情報を提供する「広報」を作っていきたいと思えます。

組合広報誌『東鉾』

200号発刊にあたり

理事長 今 西 浩 一



組合員各位の暖かいご支援に育まれ、東京鉾螺協同組合機関誌『東鉾』は今年8月1日号をもって200号を迎える事が出来ました。

これもひとえに現組合員の皆様、そして先輩諸兄のひとかたならぬご指導の賜と深く感謝申し上げます。

顧みまするに昭和37年4月、時の理事長入内島久松氏の下に深澤新平氏を委員長に八氏の広報委員(因みに私の父親もその一人でした。)の方々のご尽力により発刊されました。本年8月『東鉾』200号発刊まで51年の歳月を要して辿り着いたものです。

その間、高度成長、オイルショック、バブルの崩壊など日本経済の変遷とともに時代は昭和から平成と移り今は平成25年になり、東京鉾螺協同組合におきましても苦難と繁栄の交錯する道程を歩んで参りました。

近年、歴代の理事長の下、機関誌『東鉾』に関わりのあった広報委員長を務められた各位、広報委員として活躍された方々には改めてその御苦労に対し深く感謝と敬意を表するものであります。

最近の『東鉾』では写真等がカラー化されるなど組合員の皆様に広報誌を通じて組合活動をご理解して頂くよう特別企画や委員会活動報告・支部だより・組合の動き等より一層、内容の充実化を図り、広くご意見を頂く機関誌として今後も長く発刊されるよう切に願うものです。

200号発刊にあたり、現在の小口委員長を始め広報委員の皆様にはこれを契機に斬新なアイデアと新たな構想の下に、更により一層充実した機関誌『東鉾』を発刊して頂くよう頑張ってください。

歴代理事長からのメッセージ

二〇〇号発行を祝う



広報「東鉦」発行誠におめでとございます。

昭和三十五年一月東京鉦螺協同組合発足以来、三十七年四月初代委員長深澤新平氏が就任され、以後、組合の広報として会員相互の交流の場として十二分に役目を果たされ、ここに二〇〇号を発行することになり大変喜ばしく、会員皆様の強固に結ばれた「絆」と歴代委員長さんはじめ委員の方のご努力にあらためて敬意を表し御礼を申し上げます。当初は原稿集めに大変苦労した時期もありましたが回を重ねる度に充実し編集内容が整然として、組合の動向、交互に登場される二世の若い経営者の横顔、各委員会報告、支部便り等その他諸々の記事が硬軟両様の筆致でしかも楽しく気楽に読めるように委員の方の気配りがでていて、組合員の心と心を結ぶ血の通った広報にまで発展しました。毎号興味深く待ち遠しく思えるようになりました。

ただ残念なことは一〇〇号から二〇〇号の発行の間に、親身なご指導を頂いた小西、入内島、衛藤、中園、深澤、張ヶ谷、新保、池上、川北 歴代理事長が鬼籍に入られ二度と語り合える機会を失い形容し難い淋しさを感じたことであります。

然し私達はよき先輩の教訓を胸に組合活動を組合員の皆様に正しく報道をし、広く意見を頂く機関として末永く継続してゆくことが務めであると考えます。この期を一つの節目としてさらに三〇〇号、五〇〇号の発行をめざして委員長さんはじめ委員のかたがたのご健勝とご活躍を祈念申し上げます次第です。

顧問 石川 喜一郎



顧問 丸山正昭

組合の機関誌「東紙」が200号の記念すべき特集号を発行するとの報に接し、心からお喜び申し上げます。

昭和三七年に創刊号が発行されてから、半世紀に亘る今日まで、組合機関紙としての使命を果たされましたことに対し、深く敬意を表する次第です。歴代の広報委員長はじめ委員の皆さま、そして事務局のご努力に対し心から感謝申し上げます。

「継続は力なり」と申しますが編集のご苦勞はよく解ります。私も先代、張ヶ谷理事長からのご指名で広報委員長を二期四年務めました。広報委員長の重責は、委員会における編集会議、原稿依頼、事務局との連絡、そして印刷、校正等々並々ならぬ働さがあることを熟知しております。そして、理事長始め理事会のご協力があって毎号の発行が行われます。

組合は、相互扶助ということをモットーとしております。また情報社会といわれる今日です。情報の共有が組合発展の基礎をなすものです。従って、情報の発信とともに情報の収集もまた大切なことだと思えます。

最近、表紙もカラーとなり、毎号が愉しみです。この表紙も組合員の提供によることが大変有意義なことだと思えます。

今年度も、総会において今西理事長はじめ新しいスタッフが組織され発足しました。200号は、大きな節目であります。今後とも組合員に親しまれる機関誌として、また組合員によって支えられる機関誌として、さらに充実した広報が発行されますよう、ご活躍を期待いたします。



顧問 片倉新治

「東鉦」200号発行おめでとうございます。

「東鉦」創刊以来50年経過しております。「継続は力なり」という言葉がありますが、「東鉦」はわれわれ組合のりっぱな伝統を築く力となってきたと思います。「東鉦」と総会資料は「東鉦協」の歴史であります。「東鉦」創刊から一〇〇号までの25年間と一〇一号から二〇〇号までの25年間では、組合を取り巻く環境は大きく変化しております。

わが国ではこの25年間のうち20年間で「失われた20年」と言われているように長い停滞は大きな痛手となっております。この間に進展したグローバル化・少子高齢化などの構造的な問題で先行きが見えない閉塞感が漂いました。加えて二〇一一年3月に発生した「東日本大震災」・「東電福島第一原発」爆発事故は、日本は勿論世界にも衝撃を与えました。未曾有の震災と原発事故の復興解決には、多大な人びとの努力・労力と莫大なお金が必要でありそれに長い時間がかかります。このような非常事態には、政治・政府が強力なリーダーシップを発揮して対処しなければならないのに混迷を深めるばかりでした。多くの人びとが日本の将来に暗澹たる気分になったのではないのでしょうか。ところで昨春秋、自民党が総選挙に勝ち「安倍政権」に変わって以来「アベノミクス」によって円安・株高が進み、デフレ脱却の期待で先行きに微かな光明がさしています。

長い困難な時代の中で「東鉦協」の会員企業は、15年以上に亘って倒産しておりません。このことは協同組合として誇りにしていることだと私は思います。自分の企業を倒産させないよう責任と緊張感をもって経営されてきた賜物と思います。これはすばらしい伝統ではないでしょうか。今後とも組合員に役立つ「東鉦」として一層充実させていただくよう執行部・広報委員会の皆さんにお願いいたします。

「東鉄」三〇〇号に向かつて

顧問 渡辺 昇



「東鉄」二〇〇号発刊、誠に同慶のいたりでございます。年に四回ほど、五〇余年の間、休むことなく、発行されてきたこと、歴代広報委員長、委員、組合員、事務局の努力と協力による賜ものだと思います。

昭和37年の創刊時二〇三社の組合員は現在、一六一社と余儀なくされていますが、この間文字通り、組合の広報誌かつ機関誌としての役目を担ってきました。

さて、私は理事長在任時に、一・財政の健全化（黒字化）、二・組合組織の拡充（組合員増強運動）、三・組合員相互の交流促進（支部合同例会、ボウリング大会）、四・本部・支部活動の活性化などに取り組んでまいりました。皆様の協力もあり、所定の成果をあげたものと自負しています。

現在も今西理事長のもと、それら組合事業が継続されているのは喜ばしい限りです。

ただ、今後の課題としては、組合員増強・加入促進が肝要であります。また、現東鉄会館は昭和五十一年竣工であり、老朽化しつつあり、耐震上からもどう建築していくのか中期的な課題となっております。

これら組合のヒト・カネ・モノをどう維持、発展、運営していくのか、これを推進するには「東鉄」の果たす役割は尽きません。また組合活動は本部と支部の活動が両輪であり、バランスよく機能しなければなりません。本部と支部、組合員相互の意志伝達、交流の広場として、これからも「東鉄」がより一層、質量ともに進化していくことを期待します。願わくば、組合員とくに女性や若い世代からの執筆、投稿が増えることを希望いたします。若い世代の方々の中には三〇〇号を見ることが出来るかもしれません。楽しみですね。組合並びに「東鉄」の益々のご発展を祈念いたします。それでは、いつかどこかで、組合で。

「台湾螺絲協會」との意見交換会

本意見交換会は、今年 3 月下旬に中国生産力センターを通じ、同協会が機械要素技術展（6 月 19、21 日、東京ビッグサイト）の見学を計画しており、それに合わせて当組合との意見交換会を行いたいとの申し出があったもの。同協会は、1990 年設立、会員数 143 社、台湾内需市場向けのねじの販売、貿易会社で組織されている。

実施日 6 月 20 日（木）、午後 2 時より 4 時
 場所 東鉾会館 3 階会議室
 出席者 台湾螺絲協會 21 名、東鉾協 7 名

当日は、小池総務委員長が司会進行。まずはじめに今西理事長の台湾語による歓迎の挨拶があり（これで一気に場が和みました）、続いて台湾螺絲協會の江明源理事長から、今回の意見交換会開催への感謝及びこれを機に両団体が今後とも友好を深めたいとの挨拶がありました。その後、出席者全員による自己紹介ののち、意見交換会に入りました。

テーマとしては、まず日台それぞれ独自のねじ業界の概況説明があり、その後、商品・在庫管理方法などを中心とした業務内容、組合運営上の留意点の説明と質疑応答など多岐にわたり意見交換が行われました。（詳細は、業界紙「参照」）

最後に、両団体からのお土産の交換と記念撮影、名刺交換が行われ、友好的な雰囲気の中、午後 4 時過ぎに終了しました。当組合では、海外の同業団体とのこうした意見交換会は初めてでしたが、貴重な経験となりました。



今西理事長と江理事長



委員会だより

流通経営委員会

流通経営セミナー開催報告

第 1 回の流通経営セミナーを別記のとおり実施しました。

須田氏によれば、「長期にわたる円高から今回の円安への為替転換の一番の原因は、昨年 11 月に前野田首相による衆院解散宣言であるが、円安になってもすぐには景気は回復しない。7 月の参院選までには景気上昇させるための成長戦略が 6 月中にまとめられる。アベノミクスの 3 本の矢の中でこの成長戦略がいかに具体化された実のあるものであるかが重要なポイントである。」

等の見解を示されました。

◇第 1 回

開催日 5 月 9 日 (木)

講師 須田 慎一郎 氏 (経

済ジャーナリスト)

演題 「どうなる日本経済の展

望く中小企業のために何が
必要か」

場所 東銚会館 3 階会議室



第三十六回ねじ流通商社経営実態調査 及びランク別集計の実施決まる

例年通り 7 月下旬に調査票を配布し、十一月頃集計を行う予定です。回収については例年同様、各支部長にお願いし、一括して事務局にご提出頂くよう決定致しました。(事務局直送はご遠慮下さい)

本調査は日本ねじ商連加盟 4 組合による業界調査として、その集計結果は組員各位の経営改善に資するよき参考資料となるとともに、監督官庁である関東経済産業局へ提出しております。宜しくご協力の程お願い致します。

福利厚生委員会

「支部対抗ボウリング大会」ご案内

本年度も各支部の親睦を目的に別記の通り「支部対抗ボウリング大会」を実施します。各支部とも優勝目指して腕自慢の方々を推薦してください。

(詳細は各支部福利厚生委員より説明があります)

実施日時 10 月 19 日 (土) 午後 4 時 30 分より

場所 品川プリンスホテル ボウリングセンター

参加人数 一支部 4 人 (組員又はその社員)

ルール 2 ゲームの合計スコアで順位を決定

ハンデ 「女性は 1 ゲーム 30 ピン加算」、「競技日当日満 60 歳以上の男

性は 1 ゲーム 15 ピン加算」



支部だより

3 支部(港、千神螺、中央)合同例会

千神螺支部 (株) 福岡ネジ 挽地 一 浩

実施日 平成 25 年 6 月 12 日

合同例会 幹事 港支部 鈴木精工(株) 鈴木様

場 所 浜松町 船宿「竹内」にて屋形船 P M 6 時集合

予報では台風 3 号の接近で出船はどうかと思われましたが、多少雨が降る程度で、出船にはなにも問題ありませんでした。

港支部より 13 名、千神螺支部より 7 名、中央支部より 4 名、今西理事長を含め総勢 25 名とコンパニオン 3 名を乗せて、定刻 P M 6 時 30 分に屋形船は古川より東京湾お台場の海へ 10 分程度の行程で到着。船からアンカーを落し、船を安定させて、今西理事長の乾杯で合同例会が始まりました。

座席は乗船する前にランプを引き、だれが隣になるかは乗船してからのお楽しみ、今回は自己紹介というやり方ではなく、隣の方の紹介というなかなか面白い紹介のやり方で、まだお酒がはいっていない最初の順番方は、みなさま紹介するのたいへん苦労しておりました。

屋形船よりお台場の夜景そして東京の夜景とふだんはなかなか見られない夜景を船から眺め、そして、お台場より船は P M 7 時 30 分移動、レインポーブリッジの下を通り佃島・隅田川。そして東京スカイツリーが見える場所へと、またまた船から見る夜景は素晴らしいものです。

夜景に感動して、あつという間にお開きの時間になり、中央支部 浦田副理事長の中締めで今回の 3 支部合同例会のお開きとなりました。

屋形船 竹内さんは鈴木幹事の幼なじみという事もありまして、料理、お酒とだいぶんばつをしていただき、たいへんありがとうございました。

そして今回の幹事、鈴木さん 3 支部合同例会たいへんお疲れ様でした。船は無事定刻、桟橋に到着、そして、みんなは夜の銀座へ消えていくのであります。

京都デジャブ

墨水支部 恩田鉾螺(株)

広報委員 恩田 信 一

本号が上梓される頃には旧聞に属するが、四月十三日・十四日両日に週末を利用して支部旅行が開催された。十三名の参加者は新幹線で目的地である京都に向かった。天気にも恵まれ、降り立った時には少し暑いぐらいの陽気である。そのまま料亭で湯豆腐付の懐石料理を昼食にいただいた。食事は大変美味しく、お酒もすすみ、早くも出来上がる参加者が続出。食後には京都御所の見学に向かう。支部の特徴なのか、皆さん誠に自由である。見学の最中に酔いがまわり、無断で宿へ向かう方や、見学もそこそこの昼から女性のある店で飲み始める方もでて、御所見学のあと予定されていた作陶に向かったのはわずか四名という有様だった。今回は二日目の午後自由行動が予定されていたこともあり、幹事の発案で十三名を四班にわけ、細かいスケジュールに合わせて団体行動をすることになっていたが、幹事のご苦労はここで早くも水泡に帰すことになる。このような具合であるから、まして宴会においておや。二次会・三次会・四次会と時を追うごとに自由闊達、皆さんそれぞれ楽しまれたようだ。

翌日は京都国際会館に移動し、松下幸之助の建てた茶室で裏千家のご指導をいただく。多少の心得のある方もいたが、昨夜の猛々しい気持ちをおのの場に治め、非日常を体験し、ようやく皆さんおとなしくなったようである。昼食後は班単位での自由行動。欠員のでたわが佐藤班は、やはり欠員のて他他班と合流し、清水寺や八坂神社を見学して回った。帯高の奇妙な着物姿の外国の方と眺める新緑に包まれた清水の舞台はとても素晴らしい場所であった。所用で先に帰る方や行方不明の方もでて、夕方の予定の新幹線の車中であらわれたのは七名ばかり。(こうして筆を進めてみると、支部の中がばらばらなのかと思われるが、さにあらず。仲は良いのだから不思議である。) 緻密なプランを立てて下さった相田さんと成島(重)さんには本当に申し訳ないことになってしまった。元氣一杯走り回る園児に辟易とする保父さん、といった感想をお持ちではないだろうか。いずれにしろ、その素晴らしいアレンジに皆



「国立京都国際会館前」

さんを代表して感謝申し上げたい。
 同じ班で部屋も同じだった某氏についても少し触れておこう。いつもと違い、宴会では比較のおとなしくされていたが、二次会以降はやはり元氣印である。好みの女性の電話番号も入手し、某氏にとって今回の旅行は多分に実りあるものであったに相違ない。今回の支部旅行のあと数週間後にやはり京都に出張予定のあった某氏のその後のアクションも興味深いところである。「地位は人を作る」ということわざがあるが、これは訂正する必要があるだろうだ。
 「地位は人を作る。だが、本性は変わらない。」

相州大山を車窓から望み、心の中でお題目を唱えながら帰路についた。
 「六根清浄・・・。六根清浄・・・。某氏の〇根だけ不浄・・・。」

追記 後日某氏より連絡があり、出張ではおとなしくされていたとのこと。ここは黙って信じることにしよう。「疑わしきは被告人の利益に。」最高裁の判例にもある。



港銚螺ゴルフ会

第二回ゴルフコンペ

昨年、記念すべき第一回ゴルフコンペを開催し、今年から年に二回はコンペを開催するという公約を実現させる為、去る平成二十五年六月十九日栄えある(?)第二回ゴルフコンペを開催致しました。

川久保副会長が設営した八王子にある「武蔵野ゴルフクラブ」に三々五々集まりました。六月というのに台風が接近しているという悪条件の中、さすが普段の行いの良い港銚螺会、風雨にさらされず、笑顔でプレーすることが出来ました。

生真面目な港の面々は、プレー後にアルコールの抜きのケーキセツトで反省会を兼ね、今後のコンペの在り方と次回の日程を決め、いよいよ「港銚螺ゴルフ会」が本格的に発足したような気がします。今頃、プレーヤーは秋の芝刈りに向けて闘志を燃やしていることでしょうか。私は、道具を新調しようと思えます。笑。

港支部 馬場美由紀

優勝	衛藤 幹
準優勝	関 清八郎
第三位	岩田 恭一
第四位	野口 俊家
第五位	川久保弘美
第六位	矢口 一成
第七位	馬場美由紀



組合の会議から

◇五月

九日 第四回理事会 午後五時三十分(東鉦会館)

二十一日 広報委員会 午後六時(東鉦会館)

二十二日 規格委員会 午後六時(東鉦会館)

二十八日 総務委員会 午後六時(東鉦会館)

◇六月

十一日 福利厚生委員会 午後六時(東鉦会館)

十三日 広報委員会(川柳) 午後六時(東鉦会館)

十七日 規格委員会 午後六時(東鉦会館)

二十六日 総務委員会 午後六時(東鉦会館)

二十七日 事業委員会 午後六時(東鉦会館)

組合員だより

◇代表者変更

昌栄支部 (株)平渡商店 新代表者 平渡 茂子氏

港 支部 宇都宮螺子(株) 新代表者 宇都宮高明氏

山之手支部 丸山螺旋鉦(株) 新代表者 大野 裕幸氏

訃報

昌栄支部

(株)平渡商店 代表取締役 平渡 誠様(享年五十九歳) 四月二十三日に逝去されました 謹んで哀悼の意を表しご報告いたします

◇東鉦ゴルフ会◇

本年度第1回(通算第123回)のコンペが4月17日に行われました。

(七位までの順位は別記の通り)

第 123 回 取手国際 GC

順位	氏名
優勝	馬場 義治
2 位	中村 勝士
3 位	土方 國任
4 位	山田 茂始
5 位	金枝 新太
6 位	浦田 秀明
7 位	田口 忠

★東鉦ゴルフ会 会員募集★

東鉦ゴルフ会では、只今新規会員を募集しています。
(年会費一万五千円コンペ年四回実施、申込は組合事務局まで)



東鉄二〇〇号発刊記念

『川柳コンクール 結果発表』

【はじめに】

東京鉄螺協同組合機関誌『東鉄』発刊二〇〇号を記念して企画いたしました川柳コンクールの結果につきまして本誌上にて以下発表させていただきます。

まずはご応募いただきました組合員三三社様とご応募いただきました一三六句の作者様に広報委員会より厚く御礼申し上げます。この企画につきましては広報委員会での度重なる協議の結果採用いたしましたもので、なるべく多くの方々のご参加を本旨とし、気軽に楽しめ、更にこの二〇〇号という節目の年（二〇一三年）に話題となっている事柄やネジの同業者組合としての観点から、テーマをそれぞれ『世相』と『締結』に絞り込んで、川柳のコンクールをしようということになりました。また一〇〇号、二〇〇号と続き、来たる二五年後には三〇〇号を迎えられるように、将来を見据えた企画とさせていただきます。

【審査結果】

以下応募作品の審査結果ですが、その判定基準としましては、本来川柳とされているものの特性として、面白み、穿ちそして軽みがよく表現されているかを基準に応募作品を吟味し最優秀賞一句、優秀賞二句、佳作十句を選抜いたしました。



最優秀賞作品（賞品2万円分図書券）

『わが夫 適正トルクで 締めてます』 カカア天下



優秀作品（賞品1万円分図書券）

『大地震 備蓄してるの 脂肪だけ』 アッパーワールド



優秀作品（賞品1万円分図書券）

『かみさんの 化粧の膜厚 増すばかり』 ネジ子Bねじ雄



佳作 (賞品千円分図書券)

『アベノミが クスツと笑い 国ねじれ』

東京タワー

『締めてつけて 締めてつけ過ぎて 不良品』

寝爺

『日銀は 評価上げ下げ 水銀か』

きつねうどん

『センターを 選挙で決めて ポンチ打つ』

日月火

『好景気 ネジいつ巻くか 今でしょ』

あつみ庵

『酔い回り「ポルトキープ」と 口走る』

金瓶梅

『セット品 何か足りない ワシヤ知らぬ』

無責任おやじ

『中高年 潰れたネジの いしあたま』

もやもや

『消費税 お小遣いにも つけてくれ』

ママ大好き二兄のパパ

【全体評価】

総評としては、百三十六句全体的な傾向を述べますと、四十六句が主に締結について、三十句が世相について、残りは五十句ほどが『世相』や『締結』にその他のテーマを乗せたハイブリッド型、あとはテーマ不明のものも若干ございました。それぞれ傑作ぞろいで正直、審査員達は選定に非常に苦労いたしました。

『締結』につきましては流石に締結の本質を理解された作品が多く、同時にネジにつきものの表面処理や製造の観点からも作句されています。また家族、経営、健康、組合活動などを織り込んだ作品も散見されました。

『世相』のほうでは現在(二〇一三年六月時点)の政治は安倍晋太郎首相率いる自民党政権で、『アベノミクス』と呼ばれる経済政策においてリーマンショック(二〇〇八年九月十二日)以来の不景気状況を打開して、円安、株高を具現化し、更に今夏の参議院選挙で国会での衆参ネジれ現象を是正しようという狙いで諸策を打っているところですが、来年に迫った消費税増税はいかに、国の借金体質は改まるのか(現時点では一兆円超)など安倍政権が抱える様々な問題点、課題などが山積する中、これらをテーマにしたものも多々見られ、また本年の流行語である『いつするの? 今でしょ!!』という著名な予備校教師の言葉を採用した句も五句ほどありました。

また東日本大震災(二〇一一年三月十一日発生)絡みの作句も4句見られ

ました。

選抜では必ずしもテーマ毎に選んだ訳ではないのですが、結果的に程よく各テーマ毎に良い句が出品されたという結果です。

【優秀作評価】

『わが夫 適正トルクで 締めてます』 カカア天下

この句は本当によくできていて、しかも軽く、またちよつと奥様の立場で旦那様をチクリと差し込みながら守っているご様子が窺え、微笑ましくも睦ましい家庭像を彷彿とさせています。深読みした場合には適正トルクという言葉は奥の深い用語でJISに言う標準締付トルクとしての使い方と最適締付トルクとして被締結物の強度や用途も踏まえて個々に定める場合もあり、ここでは正に個々の用途(各夫婦毎の関係性によるという意味)に基づいた最適トルクの意味合いが用いられています。一般にネジ締結というのは本当に様々な意味合いに援用、応用、類推ができて、我が業界が扱っている商品は『産業の塩』と言われる物としての役割で、また抽象的には人間関係での良好な関係性を代弁しているような商品で社会に対して貢献していると言え、最優秀賞として文句なく選ばれた訳です。蛇足ですが、雅号のカカア天下というところで、やや作品の補足や説明的な色合いを感じさせます。ここはカミサマとやっておくとカミサンとも神様とも捉えることができ、今後の作品でも使用できるのではないのでしょうか。

【優秀作評価】

『大地震 備蓄してるの 脂肪だけ』 アツパーワールド

この句も審査員の推挙が多かった作品で、いきなり大地震とぶち上げた後、その被災意識と防災対策が徐々に薄まってきたことを、ダイエツトにたとえて、コミカルに表現したところが秀逸で、実は当初はこれを最優秀作へとの意見が多かったわけです。特に現在二〇一三年六月の時点で、二〇一一年三月十一日のあの大地震からまだ二年目だというのに、昨今では関係の失言やら高級官僚のツイッターでの暴言等、喉元過ぎればなんとやらで、全く被災

地の皆様の苦しみもなかなか実感として伝わらない状況を痛烈に風刺していると言えます。また他の句で『命より 健康お金 あの世まで』というのがあり、いまどきの世相は健康やお金が国民の最大関心事で、何のための健康かお金か?というより、それ自体が目的化してしまい、あの世にまで健康やお金を持つてゆこうというような風潮で、本末転倒の時代です。

【優秀作評価】

『かみさんの 化粧の膜厚 増すばかり』 ネジ子Bねじ雄

この句は本当に可笑しい。奥様の年齢が高むにつれ化粧下地やらファンデーションを厚く塗らないと皺が目立つということをメッキの膜厚にかけて、やや冷やかし気味に投げかけているご様子が微笑ましい。但しファンデーションにおける単位面積(顔の面積なので個体差あり)当たりのコストは安いものでも三〇日〜四〇日間で二〇〇〇円前後かかり、容量、容器も各社足並みそろえ設計されていて、定期的に新たに購入することになります。しかも日々の化粧では、朝夕の工程が違い、更に毎日繰り返されるので、工程毎、脱脂剤、洗浄剤、養生剤、塗布剤等が必要となるわけですからたまったものではないのです。各々専門用語ではメーク落とし、ソープ、スキンケアで総称される化粧水、乳液、美容液と下地塗装としてのファンデーション、部分塗装にあたるポイントメークがあります。各々の工程には特別な溶液や処理剤が存在し、これがほとんど毎日で一連続くわけですから、まさに化粧品業界は工程を複雑にしてしかも日常性をあおり、否が応でも付加価値を向上させるマーケティングであります。一方これだけ素肌には化合物を刷り込むわけですから、奥方様のお肌の表面粗度が当初▽が三個くらい付いたものが二個が一個になり、しまいには仕上げ無し〜くらいになってしまい、更に念入りに表面処理が必要になってくるという仕組みであります。その点我が業界は表面処理がキログラム当たり五十円とか防錆性の良いメッキにいたっては百円とか言っています、それも一回つけたら二度と剥げないとか、何年持つとか言って、ちっとも繰り返し性がありません。業界が違うとはいえ表面処理も世界が違くと付加価値がちがうというお話です。雅号のネジ子Bねじ雄は藤子不二雄A(藤子F不二雄の場合もあり)さんをもじったものだと思います。

います。ネジ業界ならではの大変良い雅号で雅号大賞を差し上げたいと思いますが、賞品はありません。

【まとめ】

今回の川柳コンクールでは雅号のみの応募ということで、審査結果発表では一切支部名や会社の所属を明らかにしていません。これは審査員も広報委員会内ではやはり各支部や会社を代表している人が担当しているの、審査の過程では人賞候補作リストにはそれらを削除して審査しました。作品の良し悪し以外にも支部や会社が特定してしまいますと、人間どうしても情が働いてしまい本来の作品主体の評価が難しいとの判断です。作者がどこの誰かを、人情として知りたいのはやまやまですが趣旨を貫いて公表しません。賞品は広報委員会より郵送にて作品応募会社様にお送り申し上げますので、組合員様は作者にお渡しいただけると幸いです。

さて今回は東鉄二〇〇号発刊記念として企画しましたが、この東鉄が次の三〇〇号も迎える時に二〇〇号の時代はどうであったかを伝えることをかなり意識しました。三〇〇号は二五年後ということで、私などは米寿を迎える歳になっており、果たして東鉄三〇〇号を拜読できるのか危ぶまれるところですが、どうか業界関係者の皆様、特に若手と言われる方々におかれましては、歴史ある東京鉄螺協同組合が永遠に存続し、益々の発展を遂げ四〇〇号、五〇〇号と続くように祈願いたします、川柳コンクールの企画をお開きとさせていただきます。ご協力重ね重ねありがとうございます。

平成二五年八月一日

広報委員会 二〇〇号発刊記念川柳コンクール審査委員会

審査リーダー 野口俊家

